

○ 1 1 番 和嶋富夏君

仲津中学校 2 年、和嶋富夏です。私は、学校菜園や地域農家との交流の充実について質問します。

私は、学校行事で行った起業家プロジェクトを通して、農業は一人で簡単にできるものではなく、多くの人の協力や知識が必要であることを学びました。そのため、現在進んでいる担い手不足は、地域の農業を維持していくうえで大きな問題だと考えます。このままだと、農業従事者の高齢化が進み、後継者が増えなければ耕作されない農地が増え、地域や市の魅力の一つである豊かな自然や農業文化が失われてしまうという可能性があります。

そこで、私は、若い世代が農業に興味を持つ機会を増やすことが重要だと考えます。

例えば学校と地域が連携して農業体験を行ったり、農業の魅力や、やりがいを発信することで、将来農業に関わりたいと思う人を増やせるのではないのでしょうか。また農業機械や I C T 技術を活用し、少ない人数でも効率よく作業できる環境を整えることも必要だと考えます。

私は、地域の農業を未来へつなげるために、若い世代が農業に触れる機会を増やして、誰もが農業に挑戦しやすい環境づくりを進めていくべきだと考えます。

執行部は、どのような考えでしょうか。

○後半議長 荒木優丞君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えします。まず行橋市においても農業に従事する人々の高齢化や後継者不足が進み、農業の担い手が不足していることが大きな課題となっています。先ほど別の議員さんに対しても答弁させていただいたところでございます。そのため、市では新たに農業を始める人々への支援や農業の担い手を増やすための取り組みを進めています。また、耕作放棄地の活用を進めるなど、地域の農業を守る取り組みにも力を入れているところであります。これは国や県とも連携して一緒にやっています。

議員がおっしゃるように、農業を未来につないでいくためには、若い世代の皆さんに農業の魅力を知っていただき、興味を持っていただくことが大切だと考えています。

また、I C T を活用した農業機械やスマート農業の技術は、作業の省力化、エネルギーを少なくすることですね、また効率化につながり、少ない人数でも農業を続けやすくなることが期待されています。市としても、議員からいただいた提案を参考にしまして、学校や農業者、関係機関と連携し、若い世代が農業に興味を持ち、将来の仕事の選択肢の一つとして考えていただけるような取り組みを進め、本市の農業と農業文化を次の世

代、若い皆様方に伝えていきたいと考えています。

実はですね、いま農業も、例えば中京中学校のそばでは、大きなハウスを作って、そこでサラダほうれん草といったものを作っています。行っていただくと分かるんですけども水耕栽培で無農薬です。ほうれん草は収穫が比較的早いんですね。ですからたくさん生産をすることができる。大手の大きな企業さんに、そこでできたほうれん草は出荷しております。農業のかたちもやっぱりいろいろと変わってくると思います。

それから、きょう先ほど、仲津中学校の牧瀬議員からも農業関係の質問がございましたが、起業家教育、アントレプレナーシップ教育と言いますが、この一環として仲津中学校では、農業体験をして収穫したものを実際に恵みの郷で販売をされたり、私も実際に買いに行ったんですけども、そういったこともされております。

それから、さらにこの地域では、農家さんと地域のお母さん方を中心に、大人の方たちが中心になって、自分たちで実際に耕作放棄地など、それから田んぼとしてもう使わないような所、あるいはこれまで使っていた所もそうなんです、そういった所を実際に自分たちで田植えから稲刈りまでやっている団体もあります。そこに小さなお子さん方も参加されているということで、行政が主体で動くもの、学校、それから農家さんや地域の方々、様々な活動がございますので、こういったところと連携したり、あるいは支援したりしながら若い世代の農業の担い手、そういった方々の発掘にもつなげていきたいと思っています。以上です。

○後半議長 荒木優丞君
和嶋議員。

○11番 和嶋富夏君

ありがとうございます。市が就農する人への支援を進めていることが分かりました。

一方、将来、農業に携わる人を増やすために、子どものころから農業の魅力を知り、興味を持つことも大切だと思います。

行橋市では、学校菜園や地域農業との交流をさらに充実させ、子どもたちが農業について学ぶ機会を増やしていく考えはありますか。

○後半議長 荒木優丞君
執行部に答弁を求めます。
教育長。

○教育長 山田英俊君

議員の質問にお答えします。議員がおっしゃるように、子どもたちが地域の農業に触れ、農業の魅力や、やりがいを知ることは、ふるさとへの愛着を育むとともに、将来の進路や職業について考える大切な学びにつながるものと考えています。

行橋市の小中学校では、学校菜園で野菜を育てたり、地域の方々に協力いただきなが

ら田植えや稲刈りなどの農業体験を行っています。また、和嶋議員も、よくご存じのように、仲津中学校では、1年生の生徒が、起業家教育の学習活動として、総合的な学習の時間を中心に、地域のよさを生かした、桃や梨の袋かけや収穫などの果樹栽培や、さつまいもや白菜などの野菜栽培を行っています。この活動では、CONNECTという会社を立ち上げ、栽培だけではなく、販売マーケティングや研究開発、広報、販売などを一貫して行っており、農業に対する興味・関心を高めることにつながる大変素晴らしい取り組みであると、教育委員会も認識しているところであります。

教育委員会では、今後も、こうした体験活動を大切にしながら、地域の農業者や関係機関との連携をさらに深め、地域の農業や食について学ぶ機会の充実が図られるよう学校に指導してまいりたいと考えております。以上であります。

○後半議長 荒木優丞君

和嶋議員。

○11番 和嶋富夏君

ありがとうございます。学校によって体験できる内容が違うと思います。せっかく行橋市には多くの農家さんや豊かな農業がありますので、市内のどの学校でも地域の農業を学べる機会があるとよいと思います。学校と地域、そして市が一緒になって取り組むことはできないでしょうか。

○後半議長 荒木優丞君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えします。議員おっしゃるように、そういった取り組みは本当に大切だと思っております。実際に現在でも市内の学校では、地域の特色を生かしながら、学校菜園や田植え・稲刈りなど、農家の皆さん方にご協力をいただいたりしながら農業体験を、大体の小学校などもそうですが、いろんな学校で行われているところです。

市といたしましては、こうした取り組みを大切にしながら、農業により関心を持っていただいて、農業をやってみたいと思っていただけるような農業施策、事業に取り組んでまいりたいと思っております。

食の安全保障という言葉がありますが、まず我々、食べなきゃ生きていけないわけですね。食料自給率という言葉はご存知かもしれませんが、かなり海外に依存している、これカロリーベースとか、見方によっていろいろ変わってくるんですけれども、やっぱり可能な限り、自分たちの食べる物は自分たちで作る、自分たちの地域で作る、これが基本ではないかなと思っておりますので、私自身も含めて、そういった思いを持って、そして今まで以上に市全体で農業を中心とする1次産業をみんなで担ってい

く、そういった気運をつくってまいりたいと思っています。以上です。

○後半議長 荒木優丞君

和嶋議員。

○11番 和嶋富夏君

前向きな回答を、ありがとうございました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。